じゅうさんぶつかさとうば
十三仏笠塔婆

室町時代
満濃地区　四條本村

十三仏信仰は鎌倉時代から広く普及しました。故人の追善供養※1のために初七日から三十三回忌までの忌日※2に 13 の仏をあてはめた民間信仰です。この信仰は特に真言宗と密接な関係ですが、宗派を問わず広く行われています。

笠塔婆※3は、四條本村の立薬師本堂に向かって左の小堂に祀られた凝灰岩※4の石造仏です。長年、風雨にさらされていたため著しく風化※5しています。

塔身正面は、十三仏の像容※6（軸物※7などにみられる）が彫られています。5段形式で各横3体の4段、中央上段に1体の配列、最上部は仏天蓋※8です。

向かって塔身左側面上部には金剛界大日如来※9を表す梵字※10、下部には銘文※11「永正十六天九月廿※12一日敬白」が彫られています。「永正」は室町時代の年号、「天」は年、永正 16 年は西暦 1519 年で、9月 21 日は秋の彼岸に当たり、かつ弘法大師の命日でもあることを意識して造立したと考えられます。「敬白」は「謹んで※13 申し上げる」という意味です。

向かって塔身右側面上部には胎蔵界大日如来※14 を表す梵字、下部には「四條一結衆 井」が彫られています。「四條」は当地名、「一結衆」はこの石塔を建てるために志を同じくする人々、「井」は菩薩の略字です。

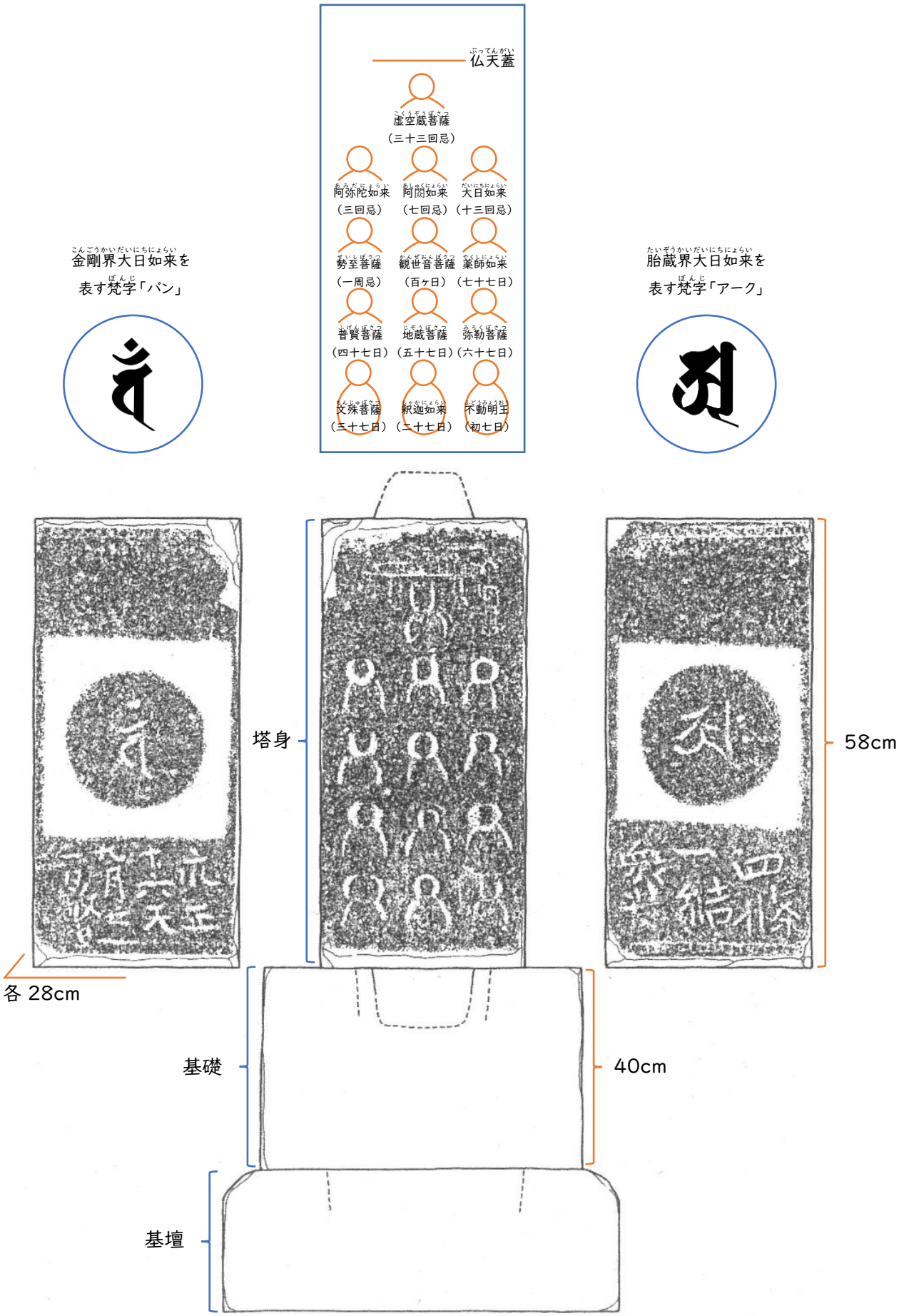
十三仏笠塔婆　正面　平成 17 年 9 月撮影

銘文より、四條（村）の一結衆によって永正 16(1519)年 9 月 21 日に造立されたことがわかります。

十三仏石造物※15 は四国では 10 件確認されており、讃岐の中讃地域に笠塔婆が7件集中しているといった地域的特徴があります。その中で形式の移り変わりを考えたときに、当寺の笠塔婆は簡略化※16 されていく中間にあたることから、貴重な一基として高く評価されます。

※「考証 平成 12 年 9 月 18 日 大手前女子大学 考古学 藤井直正教授」
『新修満濃町誌』2005 より引用
※参考文献「四国における十三仏石造物の検討」海邊博史
『十瓶山Ⅱ』2006

※1 死者の冥福を祈って行う供養。※2 故人の死亡した日。七十七日までの追善供養をする日。※3 死者を供養するための石製の塔で、上部に笠型の石がのせられています。※4 火山灰が固まった岩石。加工しやすく、建築石材としてよく使用されます。※5 岩石が自然環境の中で次第に破壊されたり、変質していく作用。※6 仏像の様式や形。※7 掛け軸として整えられた書画。※8 仏像の上にかざす傘。※9 密教の経典「金剛頂経」で説かれるすべての仏の基となる仏。※10 経典を記した古代インドの文字。密教の影響で神秘化された文字として使用されています。※11 石などに出来事や人の功績を記した文。※12 数の 20。※13 かしこまって。※14 密教の経典「大日経」で説かれるすべての仏の基となる仏。※15 笠塔婆、石幢、石仏、別石など。※16 簡単なものに変えていくこと。



実測図[「四国における十三仏石造物の検討」海邊博史『十瓶山Ⅱ』2006]

永
十
正
天
六
月
九
一
日
廿
敬
白

四
一
條
結
衆
井

令和２年 12 月作成
まんのう町教育委員会 生涯学習課 文化財室
〒766-0202 香川県仲多度郡まんのう町中通 875 番地 琴南公民館内
電話（0877）85－2221 FAX（0877）85－2826